

納付金は減少 しかし保険給付費は増加 単年度収支で赤字の予算に

去る令和4年2月25日に開催された第77回組合会において、当健保組合の令和4年度予算と事業計画が可決・承認されましたので、そのあらましをお知らせします。

健保組合を取り巻く状況

日本は、世界に類を見ないスピードで高齢化が進行しています。高齢者の医療費は社会全体で支えるという観点から、健保組合は「納付金」を拠出して、高齢者医療制度の財政を支えています。令和4年は人口のボリュームが多い団塊の世代が75歳（後期高齢者）になり始めます。さらに令和7年には団塊の世代がすべて75歳以上となるため、高齢者医療制度への納付金負担急増による健保組合財政の悪化が懸念されています。このままでは支える側である健保組合の財政が立ち行かなくなってしまう。

そこで現役世代の負担上昇を抑えながら、すべての世代が安心できる社会保障制度を構築するため、令和4年10月から75歳以上の後期高齢者の自己負担割合が一部見直され、「一定所得以上の方（単身世帯の場合、年収200万円以上）」

を2割負担とすることとなりました。しかし、2割負担となる対象者数は限定的であり、十分な財政効果は期待できません。健康保険制度を維持していくためには、世代間の負担のアンバランスを是正することが、喫緊の課題となっています。

収入

当健保組合の令和4年度予算は、前年度と同じ健康保険料率（千分の92）で編成しました。令和4年度の予算総額は前年度より1393万4千円少ない2億4033万8千円です。収入の93%が事業主と被保険者のみなさんから納めていただく健康保険収入（国庫負担金収入含む）です。前年度より252万6千円少ない2億253万6千円を計上しています。保険料だけでは必要な額を賄えないため、500万円を積立金から繰り入れて、収支を均衡させました。

支出

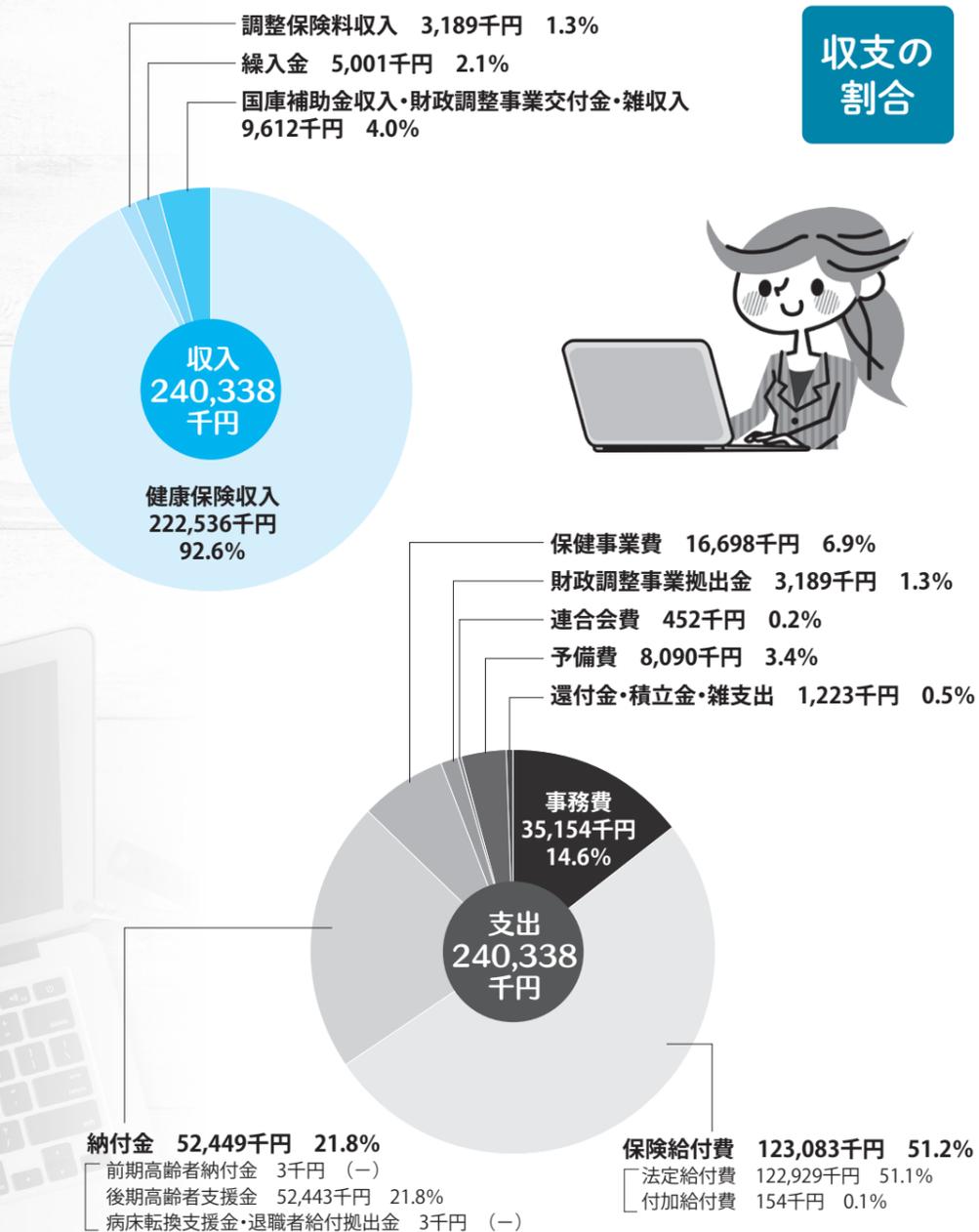
支出のおよそ51%は、みなさんやご家族の医療費や各種給付金に充てられる保険給付費です。前年度より127万6千円多い1億2308万3千円を計上しています。高齢者医療制度への納付金は、前年度より2050万4千円少ない5244万9千円です。減少したとはいえ、それでもなお支出全体の21%を占めています。

みなさんの健康づくりをサポートするための事業として、保健事業費には前年度並みの1669万8千円を計上しております。健診や人間ドックの補助、そして保健指導などを通して、みなさまの健康管理をサポートしてまいります。これらの事業を積極的に活用して、健康管理にお役立てください。

以上の結果、令和4年度は150万6千円の赤字予算となりました。医療費等の支出額次第では、黒字決算になるかもしれません。適正受診の励行やジェネリック医薬品の活用など、医療費の節減にご協力をお願い申し上げます。

そして、健康的な生活習慣を実践するようにしましょう。感染症の予防は、とても大切なことですが、心臓病や脳卒中、糖尿病などの生活習慣病も重症化すると後遺症が残るだけでなく、命にかかわることもあります。病状が急変して救急搬送が必要になった場合は、医療現場も逼迫します。人間ドックや健診を受けて、定期的に体の状態をチェックするようにしてください。

収支の割合



※四捨五入の影響で100%になりません。

令和4年度も

健康づくりをサポートします

当健保組合では、みなさんの健康づくりをお手伝いしてまいります。左記の事業を積極的に活用して病気予防と健康づくりにお役立てください。

保健・衛生知識の普及のために

- ＊ホームページの開設
- ＊医療費通知（3カ月ごと）
- ＊保健図書配布（新人対象）

病気の予防のために

- ＊特定健診・人間ドック
40歳以上の被保険者・被扶養者を対象に年1回実施
- ＊特定保健指導
対象者を実施
- ＊生活習慣病健診
被保険者・被扶養者全員を対象に実施
- ＊福利厚生サービス
「ベネフィットステーション」の利用補助
- ＊スポーツクラブ、宿泊、育児、介護、レジャー、グルメ、ショッピングなど、幅広いサービスが受けられます。